

平成30年度第1回 文化財保護委員会 抄録

1 (市民憲章唱和)

2 辞令交付

3 新任委員自己紹介

(神谷委員)

4 異動職員紹介

(西島が納税課へ異動、河村が新規採用。)

5 教育長あいさつ

6 委員長、副委員長あいさつ

7 協議事項

(1)平成29年度文化財保護関係事業結果について

(事務局)

【資料説明】

- ・文化財新規指定 4 件。

木造 飛天像(神光寺)

相撲土俵四本柱(神光寺)

相撲土俵四本柱(若一王子社)

幽囚日誌(誓願寺)

- ・史跡説明看板のリニューアル(10 基)

- ・本證寺境内整備計画に伴う用地買収の実施。

- ・姫小川古墳崩落防止対策検討会議の開催(3 回)。

崩落の激しい部分は土嚢を積んでカバー。木の根元付近はパーライトにすることで樹木の保護を図る。浅間神社社殿からの雨水対策として本證寺で施工したのと同様の雨落ちを設置する。

- ・本證寺内堀の発掘調査(石垣の劣化の調査のため)。

- ・塚越古墳の発掘調査(寄付の申出に伴う古墳範囲確定のため)。

(委員)

異議なし。

(委員長)

提案として、昨年度出版した「三河国 ここにはじまる」が好評のため、市教育委員会の主催事業ではないが教育委員会も大変力を入れていたものなので、このことも記録として残したらどうか。

(2)平成30年度文化財保護関係事業計画について

(事務局)

【資料説明】

- ① 文化財保護事業は 280 万円の予算アップ。概ね本證寺ワークショップ委託分。

- ㊦指定無形民俗文化財保存・伝承事業補助は定例的事業のため、例年通り。
- ㊧文化財保存事業補助は申請に対してその半額を補助。今年度は本證寺の鼓楼の外壁修繕など。誓願寺の方便法身尊像の修繕は簡単なクリーニング。神光寺の薬師如来再興縁起は太巻を新調。
- ㊨郷土史出版奨励事業は今年度は予定なし。
- ㊩岩田先生に依頼。4年計画の4年目。
- ㊪建造物緊急調査は名市大の溝口先生に依頼。主に安城駅南側の南明治地区の区画整理事業に伴い取り壊される建造物の記録保存。
- ㊫史跡説明板リニューアル工事は、写真付きに順次整備。今年度は桜井中学校から総合学習の一環として中学生に作成させて欲しいとの申し出があり、市民協働の観点から一緒に作っていく予定。
- ㊬本證寺内堀環境整備事業は例年通り。
- ㊭文化財保存管理等謝礼及び史跡清掃謝礼は例年通り。
- ㊮人面文壺形土器修繕は緩みが出てきているのでその部分の修繕と、専用の桐箱の作成代。
- ② 史跡整備事業については、本證寺及び姫小川古墳の用地買収の関係で予算が大幅に増えた。主に土地・物件補償分。
- 今年度新たに本證寺ワークショップ開催予定。本證寺が単なる史跡公園としてだけでなく、市民参加による地域創造の場とするための人材育成を目指し、プロのファシリテーターに依頼。
- ③ 文化財啓発事業
- ㊯主催事業として「夏休み子ども考古学講座」「安祥文化のさとまつり」「あおぞら歴史教室」の開催。
- ㊰出前事業については依頼に応じて行う。
- ㊱土器づくりボランティアの活動支援は例年通り。
- ㊲埋文センター企画展は、安祥文化のさとまつりでの企画展と6月からの昨年度調査結果速報展の開催。
- ㊳本證寺フェスティバル講演会・安祥文化のさとまつり講演会は、本證寺は千田先生に依頼。安祥文化のさとまつりについては現在未定。(その後、赤塚次郎先生(姫小川古墳崩落防止対策検討会議委員)に決定)
- ㊴平成29年度市内遺跡発掘調査報告展は、㊵で説明した報告展のこと。
- ④ 埋蔵文化財調査事業
- ㊵埋蔵文化財調査事業は1700万ほど予算が減少。桜井区画整理事業の縮小によるもの。開発以外の調査としては、本證寺境内整備のための調査で、昨年度内堀の調査を行い、今年度も引き続き行う予定。
- 姫小川古墳の崩落防止のための確認調査も昨年度に引き続き行う。古墳築造時の本来の姿

への復元を目指して、基礎資料とするための発掘調査を行う。

塚越古墳の確認調査については、土地寄贈の打診を受けたことによる、古墳の範囲確定調査。

①発掘調査報告書の発刊は、「平成 27・28 年度市内遺跡発掘調査報告」及び「堀内貝塚Ⅱ・堀内古墳」を発刊予定。

⑦出土木製品保存処理は、過去の発掘調査で発掘した木製品を順次保存処理業者に依頼。

(委員長)

昨年度の博物館協議会との合同研修会に対する苦言。委員の出席者の少ないことと、一昨年度までのかたちに戻すように。問題意識を持って、物見遊山のようにならないように。昨年度以前のように課題を設定して問題意識を持って取り組める視察にしていきたい。

(委員)

- ・調査費という名目の予算があると調査しやすく、その中から次の指定につながるような発見があると思う。
- ・本證寺フェスティバル講演会での千田先生の講演は本證寺が城郭寺院であるということをはかりやすく説明されておりすばらしかった。
- ・西尾市で文化財の悉皆調査に従事した際の特色は、単発的にやらずに多くの人員をあてがって集中的に行っていたこと。文化財保護委員以外の専門家も含めそれぞれの分野の専門家を集め、調査先でその場で判断できる体制を取っていた。
- ・総合調査を是非行いたい。
- ・地域では三河万歳など、伝統の伝承が難しくなっている例が多くある。行政は文化財の保護や活用だけでなく、伝承のための人材育成という面からも対策を講じるべき。それらの支援策の下準備としても悉皆調査は有効ではないか。

(3)今年度の安城市所在の指定文化財の管理調査について

(事務局)

【資料説明】 班編成、行き先等は資料1のとおり

3年に1度のスパンで全ての文化財を網羅できるようにしているが、もしリスト以外にも気になるものがあれば教えていただきたい。

(委員)

了承。

(4)「絹本著色 聖徳太子絵伝」他の修理について

(事務局)

【資料説明】

資料 2 参照。現在本證寺に伝わっている絵伝はここに記載されている 3 種類 20 幅。(「国重文 絹本著色 聖徳太子絵伝 全 10 幅」、「国重文 絹本著色 善光寺如来絵伝 全 4 幅」、「県指定

絹本著色 法然上人絵伝 3幅(断片3幅)計6幅」)

文化庁の調査官からは、本證寺絵伝群として全体で国宝の価値はあると言われている。ただし国宝化するためには、本質的価値を再検討する必要がある。また修理の過程で新発見などがあれば国宝化の追い風になる。

修理について文化庁からは、いずれかのタイミングで肌裏紙の修理が必要と指摘された。肌裏紙の交換は根本修理となり、これには相応の年月と費用負担が生じる。ただ必ずしも修理をすれば国宝になるというわけではないので、注意が必要。

愛知県立芸術大学非常勤講師の脇屋先生に実見いただき、ご意見をいただいた。神谷委員にも同席いただいた。結果は直ちに修理が必要な段階ではないとのこと。

修理の見積りは墨仁堂からとった。1幅あたり2年を要するので、値段は約1000万。1度に4幅が適度で、全て完了するまでには10年を要す。年間事業費は約2000万円。経費負担の表を添付した。補助率は国が65%、県が7%、市が10%で、本證寺は18%の負担になる。本證寺の負担額がトータルで5100万円に上り、本證寺単独の負担では到底賄いきれない額である。

(委員長)

地元の要求にこたえるには、修理が終わったら国宝にすると国が約束してくれると、事業を進めやすい。ただ確約が不可能であることは認識している。

提案として、安城市内で絵伝の講演会を開き、文化庁の調査官に講師に来ていただきたい。

(委員)

そこまで修理の必要性は感じなかった。修理から50年たっているので、細かい劣化は当然。軸のたわみは箱や太巻の問題と思われるので、そこを直せば大丈夫ではないか。

聖徳太子1400年忌が2022年なので、そのタイミングに絡めていくのもいいのでは。必ずしも修理をしなくても新しい価値を見つけることは研究者の役目としてできると思う。さまざまな考え方ができる。

修復についてそれほど急がなくてもということならば、公費の積み立てということも考えていかなければならない。

機運を高めることも大切なこと。その方法として講演会がベストなのかも考えなければならぬ。自発的に講演会に来る人だけでなく、むしろそのようなことにあまり興味のない方々にも興味関心を高めてもらうことも大切。そう考えると講演会以外の方法もあるのかと思う。

学術的な面以外からのアプローチも有効では。

(5) その他

協議事項なし

8 報告事項

4月29日に開催した本證寺フェスティバル講演会は推定で150人以上の方にお越しいただいた。仮称本證寺史跡公園を地域創造の中心となる公園とするため、未来寺子屋というワークショップをプロのファシリテーターに依頼して行う。